

令和元年度

授業シラバス・年間指導計画

国語(2年)

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	現代文	2	普通科・理数科	2
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	改訂版 現代文B（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	プレミアムカラー国語便覧（数研出版） 現代新国語辞典改訂第五版（学研） 重要頻出漢字リアルマスター3300（尚文出版） 評論速読トレーニング（数研出版）

目 標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1. 評論 ・文章の論理展開の構造を把握し、その構造を読み解くことから筆者の主張を理解する。 ・自己と世界（社会）を取り巻く関係について意識的に考え、扱われている問題を自分の問題として捉えて筆者の洞察をふまえながら自分なりの見解を持つようにする。 2. 小説 ・優れた描写、効果的な表現について学んで言語感覚を磨き、想像力や感受性を豊かにする。 ・小説の構造・展開・主題の把握など小説を読む基本的な方法を学んで内容を理解し、その主題を自己の問題として捉え、新しい発見をしてゆく。 ・小説の虚構を通じて生の真実や人間の生き方について考える態度を養う。 ・場面の展開に即して作中人物の性格や心理を読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。 ・積極的に読書を通して人生への関心を深め、自己の形成に資する態度を養う。 3. 詩 ・詩の世界や表現に親しみ、それぞれの作品の中で言葉が独特な力を有していることを理解して、自分の言語力やものの見方を深める。 ・詩歌に表現された作者の心情を的確に読み取り、鑑賞力を高める。 4. 短歌と俳句 ・短歌や俳句を読み味わって、その魅力を理解し、自分の感性や観念の拡充や深化を図る。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	1回考査	「国境を越える言葉」「手の変幻」
		2回考査	「山月記」「胆力について」
		3回考査	「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」「未来世代への責任」「三月の風」
		4回考査	「こころ」「短歌」「俳句」
	年度末考査	「偶然とは何か」「文学のふるさと」	
評価の観点	○評価の観点は、現代文への「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。		
評価の方法	○具体的な評価は、授業中での考察・ノート・小テスト・課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	予習で、教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書等で確かめ、ノートに整理する。また「学習の手引き」等を考え、理解出来ない箇所を質問としてまとめる。授業中の要点・板書事項をノートに書き写す。他の生徒の発言にも注意しつつ、予習の疑問点の答えを整理する（赤字で訂正）。 復習として、その日のうちに再度教科書・ノートを確認し、100字でまとめる。単元の最後は200字でまとめ、考えを深める。その上で、疑問点が解消されたか確認する。 なお、課題として配布している問題集は、自分の力で解答した上で解答と照らし合わせ、その際に解説をよく読み、理解を深めることが大切である。		

年 間 授 業 計 画 表				
期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	「国境を越える言葉」	4	・文章の構成を確認し、表現の特色をとらえる。
	5	「手の変幻」	4	
		「山月記」	5	・登場人物の性格や心理を的確に把握し、自己のあり方や生き方について考える。
	6	<1回考査>		
		「山月記」	5	
		「たんりよくについて」	6	・論理的な思考力を養う。 ・文章の論理的展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につける。
	7	「永訣の朝」	4	・詩的言語のはたらきを理解し、言語感覚を磨く。 ・詩歌を音読することで、その独特のリズムを味わう。 ・筆者の主張を的確に読み取り、自分たちの経験を踏まえて自分の考えを文章にまとめる。
		<2回考査>		
	8 9	「小諸なる古城のほとり」	2	
		「未来世代への責任」	8	・文章を読んで批評することを通して、人間・社会・自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 ・全体の構成を把握し、論の展開に即して正確に内容を読み取る。
「三月の風」		6	・文章を読んで、人物・情景・心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。	
後 期	10	「こころ」	4	・明治期に書かれた長編小説に対して興味を持って読む。 ・作中人物の性格や心理を読み取り、作者の人間に対する理解の仕方を読み取る。
		<3回考査>		
	11	「こころ」	8	・作品を通して、自身の人生について考察し、文章にまとめる。 ・青年期の生き方や自己意識のあるべき姿について考え、話し合う。
	12	「短歌」	4	・詩的言語のはたらきを理解し、言語感覚を磨く。
		「俳句」	4	・詩歌を音読することで、その独特のリズムを味わう。
		<4回考査>		
	1	「偶然とは何か」	8	・文章の展開をおさえて筆者の思考の流れに目を向け、表現に込められた筆者の意図を考察する。
	2	「文学のふるさと」		
	3		6	・例を的確に読み取り、筆者の主張へと集約させる読解方法を習得する。
		<年度末考査>		
総時間数			78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	古典 B（古文）	2	普通科	2
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	高等学校古典 B 古文編改訂版（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「古典常識も学べる新明説古典文法」（尚文出版） 「全訳読解古語辞典」（三省堂）「古文単語 330」（いっずな書店） 「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版）

目 標	古典としての古文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1 説 話（『今物語』『発心集』） 比較的平易な文章を読み、話の筋道をしっかり押さえられるようにする。既習の文法事項の説明や和歌の修辭の確認などにも注意を払い、逐語訳に努める。 2 随 筆・日 記（『徒然草』『方丈記』『枕草子』『更級日記』『蜻蛉日記』） 作者の思索的作品である随筆を学習し、読解に際して作者の目や心に近づいて理解を深めることによって、古典理解の幅をいっそう広げるようにする。また、歴史的背景を学び、作品をより広い観点から捕らえられるようにする。 3 物 語（『伊勢物語』『大和物語』『源氏物語』『大鏡』『平家物語』） 物語の話の筋を正確に把握した上で、登場人物の行動や心理について主体的に考え、感じることができるようになる。また、物語の世界を楽しんで作品を読み進められるようにする。「歌物語」「歴史物語」というジャンルについてもその特徴を押さえて、文学史的な意味を考えることができるように。 4 貴族の世界 1 年間の学習の集大成として、平安文学を読み通す力をつける。平安時代の貴族の姿について立体的な理解を深め、古典に親しむ態度を養う。		
	○演習問題に取り組むことで、古典世界の理解を深め、古文の読解力を高める。		
	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲（予定）	1 回 考 査	『枕草子』『伊勢物語』
定期考査		2 回 考 査	『大和物語』『徒然草』『方丈記』
		3 回 考 査	『今物語』『発心集』『源氏物語』
		4 回 考 査	『源氏物語』『大鏡』
		年度末考査	『更級日記』『蜻蛉日記』『平家物語』
評価の観点 評価の方法	○評価の観点とは、古典への「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○評価は、定期考査を中心に、授業中の考察、ノート、小テスト、提出物などにより総合的に行う。最終的評価は、古文・漢文を総合し、「古典」として評価する。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○しっかり音読すること。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねを続けること。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳を考えておくこと。 ○調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。授業で学んだことはできる限りその場で覚える。 ○文法事項の定着、語彙力強化のため、繰り返し復習をする。		

年間授業計画表					
期	月	曜	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	1	随筆 『枕草子』	8	・随筆を読んで、自然・人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・文章の表現上の特色を理解する。
	5	2	物語 『伊勢物語』 《1 回考査》	6	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・地方に伝承される説話を題材とした作品に親しむ。
	6		物語 『大和物語』	4	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・地方に伝承される説話を題材とした作品に親しむ。
	7	3	随筆 『徒然草』 『方丈記』 《2 回考査》	1 2	・随筆を読んで、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・無常観について理解し、日本文化の特質について考える。
後 期	8				
	9	4	説話 『今物語』 『発心集』	6	・比較的短い説話を読んで、古文に親しみをもち、話の面白さを理解する。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・和歌説話や仏教説話の特質を考える。 ・敬語について理解する。
	10	5	物語 『源氏物語』 《3 回考査》	1 5	・長編物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・最高敬語について理解する。
	11	6	物語 『大鏡』 《4 回考査》	1 0	・歴史物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・紛らわしい語を文法的に識別する。 ・敬語について理解し、口語訳に適切に生かす。
期	12				
	7	1	日記 『更級日記』 『蜻蛉日記』	1 2	・日記を読んで、自然、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
	2	8	物語 『平家物語』 《年度末考査》	5	・軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・敬語について理解し、口語訳に適切に生かす。
			総 時 間 数	7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	古典B（漢文）	2	普通科（文系）	2
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	「高等学校古典B漢文編改訂版」（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「新明説漢文」（尚文出版） 「プレミアムカラー国語便覧」（数研出） 「プログレス漢文総演習 標準編」（いっずな書店）

目 標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1 小話 ・短めの文章を読んで漢文に親しむとともに、登場人物の考え方や話のおもしろさを味わう。 2 漢詩（近体詩） ・漢詩の規則や特色を理解する。 ・漢詩の描写を味わい、そこに現れた作者の心情を理解する。 3 史記 ・登場人物の人物像を把握しながら読み、それぞれの作品の特徴を味わう。 ・中国における歴史書の特徴を知り、歴史の中の人間について考える。 4 文章 ・話の展開を把握し、登場人物の言動や心情を読み取る。 5 思想 ・諸家の思想の概要を知り、論理の展開の巧みさや表現を味わう。 ・古代中国の思想から、現代に通ずるものの見方・考え方について考える。 6 小説 ・ストーリーの展開や登場人物の人物像や心情を適確に把握する。 ・虚構に込められた作者の心情について考える。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集・参考書などから出題する。	
	範 囲 （予定）	1回考査	小話
		2回考査	漢詩（近体詩） 史記
		3回考査	史記 文章
		4回考査	文章 思想
		年度末考査	思想 小説
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考査を中心に、授業の中での考察・ノート・小テスト・課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○繰り返し音読する。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳をしてくる。 ・調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。 ・授業で学んだことをできる限りその場で覚え、重要句法・語法については、繰り返し復習をする。 ○読解力養成のためには多くの作品を読むことが必須となる。課題の問題集等を有効に活用する。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単 元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	小話	「漱石枕流」 「王昭君」 「不顧後患」 ＜1回考査＞	10	・漢文の基本構造を意識しながら、正確かつ適度な速度で訓読できるようにする。 ・漢文特有の語法や句法に習熟し、それに即した口語訳ができるようにする。 ・故事成語の意味とその由来を理解する。
	5				
	6	漢詩（近体詩）	王維「鹿柴」 孟浩然「宿建德江」 張繼「楓橋夜泊」 杜甫「春夜喜雨」	9	・漢文特有の語法や句法に習熟し、それに即した口語訳ができるようにする。 ・近体詩の特色について確認する。 ・繰り返し音読することにより漢詩を味わい、そこに表れた作者の心情を理解する。 ・作者や詩作の背景を知り、主題を考える。
	7	史記	「鴻門之会」 ＜2回考査＞	20	・漢文特有の語法や句法に習熟し、それに即した口語訳ができるようにする。 ・登場人物の行動とその意図を話の展開に即して読みとり、心情について考えながら、作品世界の面白さを味わう。 ・『史記』の文学性と作者司馬遷についての概略を知る。
	8		「項王暴挙」 「四面楚歌」 「項王最期」		
	9				
後 期	10	文章	「漁父辞」 「春夜宴桃李園序」 ＜3回考査＞	16	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・漢文特有の語法や句法に留意しながら、内容を把握する。 ・作者や登場人物の行動とその意図を話の展開に即して読みとり、心情について考えながら、作品世界の面白さを味わう。
	11		「送薛存義之任序」		
	12	思想	論語「子曰、『道之以政』」 孟子「無恒産而有恒心者」 「不忍人之心」 荀子「人之性悪」 ＜4回考査＞	15	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・漢文特有の語法や句法に留意しながら、内容を把握する。 ・諸子百家が現れた時代背景を確認する。 ・各思想家の唱える思想や世界観について理解する。
	1		老子「大道廢、有仁義」 「小国寡民」		
	2	小説	李景亮「人虎伝」 ＜年度末考査＞	8	・漢文特有の語法や句法に習熟し、それに即した口語訳ができるようにする。 ・ストーリーの面白さや登場人物の人物像・心情を理解する。 ・虚構に込められた作者意図や主題を考える。
	3				
			総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	古典B（漢文）	1	普通科（理系） 理数科	2
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	「高等学校古典B漢文編改訂版」（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「新明説漢文」（尚文出版） 「プレミアムカラー国語便覧」（数研出） 「プログレス漢文総演習 標準編」（いいずな書店）

目 標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1 小話 ・短めの文章を読んで漢文に親しむとともに、登場人物の考え方や話のおもしろさを味わう。 2 漢詩（近体詩） ・漢詩の規則や特色を理解する。 ・漢詩の描写を味わい、そこに現れた作者の心情を理解する。 3 史記 ・登場人物の人物像を把握しながら読み、それぞれの作品の特徴を味わう。 ・中国における歴史書の特徴を知り、歴史の中の人間について考える。 4 文章 ・話の展開を把握し、登場人物の言動や心情を読み取る。 5 思想 ・諸家の思想の概要を知り、論理の展開の巧みさや表現を味わう。 ・古代中国の思想から、現代に通ずるものの見方・考え方について考える。 6 小説 ・ストーリーの展開や登場人物の人物像や心情を適確に把握する。 ・虚構に込められた作者の心情について考える。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集・参考書などから出題する。	
	範 囲 （予定）	1 回考査	小話
		2 回考査	漢詩（近体詩） 史記
		3 回考査	史記 文章
		4 回考査	文章 思想
		年度末考査	思想 小説
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考査を中心に、授業の中での考察・ノート・小テスト・課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○繰り返し音読する。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳をしてくる。 ・調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。 ・授業で学んだことをできる限りその場で覚え、重要句法・語法については、繰り返し復習をする。 ○読解力養成のためには多くの作品を読むことが必須となる。課題の問題集等を有効に活用する。		

年間授業計画表					
学期	月	単	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	小話	「漱石枕流」 「王昭君」	5	・漢文の基本構造を意識しながら、正確かつ適度な速度で訓読できるようにする。 ・漢文特有の語法や句法に習熟し、それに即した口語訳ができるようにする。 ・故事成語の意味とその由来を理解する。
	5		<1回考査>		
	6	漢詩（近体詩）	孟浩然「宿建德江」 張継「楓橋夜泊」 杜甫「春夜喜雨」	4	・漢文特有の語法や句法に習熟し、それに即した口語訳ができるようにする。 ・近体詩の特色について確認する。 ・繰り返し音読することにより漢詩を味わい、そこに表れた作者の心情を理解する。 ・作者や詩作の背景を知り、主題を考える。
	7	史記	「鴻門之会」	10	・漢文特有の語法や句法に習熟し、それに即した口語訳ができるようにする。 ・登場人物の行動とその意図を話の展開に即して読みとり、心情について考えながら、作品世界の面白さを味わう。 ・『史記』の文学性と作者司馬遷についての概略を知る。
	8		<2回考査>		
	9		「四面楚歌」		
	10	文章	「漁父辞」	8	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・漢文特有の語法や句法に留意しながら、内容を把握する。 ・作者や登場人物の行動とその意図を話の展開に即して読みとり、心情について考えながら、作品世界の面白さを味わう。
	11		<3回考査>		
			「春夜宴桃李園序」		
後 期	12	思想	論語「子曰、『道之以政』」 孟子「不忍人之心」 荀子「人之性悪」	7	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・漢文特有の語法や句法に留意しながら、内容を把握する。 ・諸子百家が現れた時代背景を確認する。 ・各思想家の唱える思想や世界観について理解する。
			<4回考査>		
			老子「大道廃、有仁義」		
	1	小説	李景亮「人虎伝」	5	・漢文特有の語法や句法に習熟し、それに即した口語訳ができるようにする。 ・ストーリーの面白さや登場人物の人物像・心情を理解する。 ・虚構に込められた作者意図や主題を考える。
	2		<年度末考査>		
	3				
			総時間数	39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国 語	国語総合	1	普通科 (文系)	2
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選 択	一斉授業	国語科		

教科書（発行所）	
教科書以外の教材（発行所）	「読み解く古典2」（浜島書店） 「古典常識も学べる新明説古典文法」（尚文出版） 「新明説漢文」（尚文出版） 「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版）

目 標	古文・漢文の基礎を確実に身につけさせ、文脈に即した口語訳ができる力を育てるとともに、古典作品に対する関心を深め、国語力の向上を図る態度を育てる。		
学習のねらい	・既習の文法事項への理解を深める。 ・正確に読み下し、文章の理解に繋げる。 ・叙述に即して作品の内容を的確に捉える。 ・作品の読解を通して、その時代に生きた人々の生活・思想・心情を理解する。		
定期考査	出題方針	問題集の内容を中心に、課題などからも出題する。	
	範 囲 (予定)	2 回考査	「古今著聞集」「紫式部日記」「孟子」「韓非子」など
		4 回考査	「徒然草」「枕草子」「史記」「戦国策」など
		年度末考査	「去来抄」「無名草子」「史記」など
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」「書く能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○具体的な評価は定期考査を中心に、授業の中での考察・小テスト・課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノート の取り方など)	○繰り返し音読する。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。重要語句を調べ、口語訳をしてくること。 ・調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。 ・授業で学んだことをできる限りその場で覚え、重要句法・語法については、繰り返し復習をすること。 ○読解力養成のためには多くの作品を読むことが必須となる。課題の問題集等を有効に活用すること。		

年 間 授 業 計 画 表					
期	月		学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	問 題 演 習	「古今著聞集」(古文)	2	・各教材について、主体的・発展的に取り組む。 ・重要古語を確認し、訳を正しく身につける。 ・文法事項や漢字に従って、正確に読み下せるようにする。 ・叙述に即して、文章の内容を的確に捉える。 ・作品の特性を理解して、作品の構成・展開・内容を読み取る。 ・作品の成立背景を知り、登場人物の生活や思想・心情を理解する。
			「孟子」(漢文)	2	
	5		「宇治拾遺物語」(古文)	2	
			「新書」(漢文)	2	
	6		「紫式部日記」(古文)	2	
			「韓非子」(漢文)	2	
	7		「十訓抄」(古文)	2	
			「蒙求」(漢文)	2	
			<2回考査>		
	8		「徒然草」(古文)	2	
9		「雑説」(漢文)	2		
後 期	10	問 題 演 習	「無名抄」(古文)	2	
			「史記」(漢文)	2	
			「枕草子」(古文)	2	
			「戦国策」(漢文)	2	
			「大鏡」(古文)	2	
			「戦国策」(漢文)	1	
	12	<4回考査>			
	1	「去来抄」(古文)	2		
		「資治通鑑」(漢文)	2		
	2	「無名草子」(古文)	2		
	3	「史記」(漢文)	2		
		<年度末考査>			
			総時間数	39	